日々の暮らしに

香川芳子
女子栄養大学学長

え／目黒雅也

心華やぐ桜

学園のある東京の駒込（染井）・巣鴨界隈は中山道・日光御成街道筋という地の利から、江戸時代から明治にかけて造園師や植木職人の集落だったそうです。江戸末期に染井村の植木職人によって育成されたのが日本を代表する桜――染井吉野です。数百ある桜の品種の中でも生長も早く、若木でも花が咲くので急速に広がり、全国各地に桜の名所ができました。

学園の構内にも近くの染井霊園にも老木が多数あります。毎年、花の季節が近くなるとうきうきして、つぼみは開いたかしら、何分咲きになったかしらと、毎日桜の様子を見に行きます。まず日当たりのよい所のつぼみからほころび始めます。染井吉野は枝いっぱいに花をつけるので、咲き始めから満開まで、そして風に舞って散る姿も、どの時期も風情があり、ながめるたびに心華やぎます。

母・綾も桜が好きでした。出入りの植木職人に頼んで、近所の妙義神社の境内（今は公園）に桜の苗木を植樹してもらいました。その木は毎年花をつけ、幹も太く、見上げるまでに生長しました。母といっしょに見に行った桜の花が開くと、だれかに伝えたくなります。「今年も桜が咲きましたよ」と。

かがわよしこ●医学博士。四群点数法の開発、計量カップ・スプーンの普及に携わり、さまざまな形で栄養教育に貢献。